

## 事例紹介 Ⅲ

# 相互に連携する

NPOや志を同じくする他企業と  
連携して行う社会貢献活動。  
人材や資金、発想など、  
足りない資源を  
補完し合あうことができる  
メリットがあります。



同社はフラワーショップの経営をはじめ、スーパー向け生花の卸売、ブライダル装花など、花ビジネスを広く手がけている

# さぼーとほつと基金を通じて フリースクールとコラボレート 花育活動をより深め広げる機会に

「花を通じて子どもたちの豊かな心を育てたい」と、花育活動に積極的に取り組むブロックコーポレーションでは、フリースクール\*と意思をひとつに花育事業を実施。札幌市の「さぼーとほつと基金」を活用した企業の新しい社会貢献の形です。

## 基金への寄付にとどまらず 講座などで生徒と直接交流

ブロックコーポレーションは平成21年、創業10周年という節目を迎えたのを機に、社会への恩返し  
の気持ちから「さぼーとほつと基金」に指定寄付を行いました。指定先は札幌市を介して出合ったNPO法人フリースクール札幌自由が丘学園です。金銭的な寄付だけでなく、本業の技術や人材、早くから取り組んできた花育活動のノウハウを活かし、フリースクール  
ジメント講座や作品展など、学園の企画に全面的に協力。基金の

活用がコラボレーションによる花育事業へと結びつきました。スタッフを派遣してのフリースクールジメント講座はこれまでに

4回実施。「花とふれあい、自由に楽しみ、その力を吸収してほしい」との思いで指導にあたり、生徒たちは地下街で自分の作品を発表することを目標に、楽しく、そして真剣に花と向き合いました。

「もともとフリースクールで花育に関することをしたかった」と話す櫻井清隆常務取締役は、自身も講師を担当。「花をきっかけに何かをつかんでもらいたい。その

ことによって、外に向かつて一歩を踏み出せるようになってもらえたらと強く思う」と話します。

## 互いに実りあるコラボに そして新たな挑戦へ

生徒にとって講師とのふれあいや多くの人が鑑賞する作品展は、社会参加のきっかけとなる良い機会になりました。社内では社員教育にもつながり、活動に参加したいという声が多いそうです。思いをもつ同社と、子どもの可能性を引き出すことに力を注ぐフリースクール。両者の出合いの意義は大

きかったようです。「若い人の育成のために、広く企業に基金が活用されていけば」と櫻井常務。平成22年には、東出敏克社長と櫻井常務、賛同企業が集まり、NPO法人さつぽろ花育ネットワークを設立。さらに活動の幅を広げ、そして花の文化を育むための新たな挑戦が始まっています。

### 成功の秘訣

さぼーとほつと  
基金を  
活用する

生花小売・卸売

有限会社  
ブロックコーポレーション

中央区北7西21

教育

■資金提供 ■人材活用



1



3



2

- ①フラワーアレンジメント講座では、新鮮な花を思い思いにアレンジ。講師を務めているのは櫻井常務  
 ②熱心に花と向き合う生徒たち  
 ③講座の成果を発表する場となった地下街オーロラタウン・オーロラスクエアでの「花育フラワーアレンジメント作品展2010」の様子

※フリースクール 一般的に学校教育法に拘束されない民間の教育機関のことで、日本では理由があるなしにかかわらず、小学校・中学校・高校などに行けない・行かない子どもたち（不登校・引きこもり状態）が居場所・学びの場として過ごす所と定義している

# 保育料をもつ短期大学部に 子育て支援センターを設置 親子のつどいの広場を地域開放



自由に楽しむ「んぐまーま」には毎回たくさんの親子が訪れる



乳幼児親子と接する機会の少ない学生たちには貴重な学びの場

幼稚園・中学校・高等学校・大学運営

学校法人 札幌大谷学園

東区北16東9

子育て

■機会創出 ■物品提供

**子育てNPOと連携  
つながりの輪を広げる場**

学園設置校である札幌大谷大学短期大学部は、地域の声を教育と研究に活かす目的で、平成17年に子育て支援センター「んぐまーま」を立ち上げました。取組の一環として、校舎内についての広場を開設。毎週木曜日の10時から15時まで、地域の親子に開放しています。

「んぐまーま」はNPOとの協働運営。同短大卒業生が代表を務め、20年以上活動しているNPO法人子育て応援「かざぐるま」のメンバーが専門スタッフとして常動しています。ここでは主に0〜3歳児とその親が気軽に集い、基本的にノンプロگرامで自由に過ごすなかで、親が子育て仲間を見つれたり、育児相談などができる場を提供。保育科2年生の家族援助論の実習の場でもあり、毎回5人ほどの学生が交替で参加しています。

**学生が親子とふれあい  
みんなで一緒に育ち合う**

センター長で保育科教授の大道子さんは「学生が子育てしている親たちと接したり、かざぐるまスタッフの様子を観察することで、『子育て支援とは何か』を実体験し、保育界に入っていくのは意義のあること」と語ります。また、親たちには「自分も学生の育成に貢献している」という生き生きとした感じが見られるそうです。

「友だちを見つけよう・みんなで大きくなるう」という「んぐまーま」の志は地域に広がりをみせ、親子、学生、スタッフ、教員がともに学び合い、育ち合う場になっています。

成功の秘訣

大学、NPO、地域  
連携による  
相乗効果



現場周辺での地域貢献活動では、苗穂児童会館で自然工作教室を開催

平成15年度に「グリーンア  
クシオン」宣言を行い、本社  
と営業所において環境活動を  
継続的に実施。内容は植樹や  
清掃、子ども向けの環境教育、  
工事現場周辺地域の環境マッ  
プ作成など盛りだくさんです。

道路舗装工事

## 大同舗道株式会社

中央区北2東17

環境保全 ■社員参加 ■機会創出

## 部門のキーマンや社員がアイデアを出し 他主体との連携も含めた環境活動を実施

同社の「環境キーマン」で  
ある高橋秀夫品質環境室長  
が考えるのは、「先駆的で、  
道内経済が潤うような取組」。  
自ら環境市民団体に所属し、  
その活動やNPOなどとのつ  
ながりが取組のアイデアソ  
スになっています。

現場事務所ではペレットス  
トープを利用するほか、消費  
電力の一部を対象にNPO法  
人北海道グリーンファンドか  
らグリーン電力証書を購入。  
自然エネルギーを利用して作  
られたグリーン電力を活用し  
(平成21年度実績…9千kW  
h)、地球温暖化対策に取り  
組んでいます。



同社と町内会で管理するコミュニティガーデンの雑草取りをする社員



北海道の恵みを感じる新しい製品デザインを募集。36作品が寄せられた

北海道洞爺湖サミットの開  
催をきっかけに、「企業とし  
てできることはないだろう  
か」と考えたところからプロ  
ジェクトがスタート。平成19  
年「北海道カムイミンスター  
ランドデザインコンクール」

造形コンサルティング

## 株式会社 ウェザーコック

豊平区月寒西

文化芸術 ■機会創出

## 地域産業活性化にデザインの力を活かす 企業が連携・協力しコンクールを開催

製品化を実現しました。  
山本真裕代表と山本一枝専  
務は「企業の連携で経済の活  
性化につながる仕組みを育て、  
また、デザイナーが道内でも  
希望をもって活動できるレ  
ールを敷けたら」と話します。

事務局を設立しました。メン  
バーは、同社の呼びかけに賛  
同した市内のデザイナーやIT  
関連、製作、販売の9社です。  
北海道の若いデザイナーの  
道内定着、良質なデザイン製  
品の創出と販売体制の構築を  
目指し、翌年第1回のコン  
クールを開催。「森と暮ら  
す」をテーマに製品デザイン  
を募集し、優秀賞選出作品の  
製品化を実現しました。



山本真裕代表(右)と山本一枝専務。産学官連携活動にも取り組んでいる

# 北海道、北海道環境財団と 水辺の環境保全団体を支援 「北海道e-水プロジェクト」



団体の活動には同社社員が参加することもしばしば。地域との一体感が高まるそう



北海道限定発売のジョージアの売上げの一部を財団に寄付

清涼飲料水販売

北海道コカ・コーラ  
ボトリング株式会社

清田区清田

環境保全 ■その他

どさんこ企業として  
水資源を守る活動を

「清涼飲料水を販売している当社は水の恩恵を受けている。どさんこ企業として、北海道の水資源を守り、次世代に引き継いでいきたい」。そんな思いから北海道、財団法人北海道環境財団と3者協働で「北海道e-水プロジェクト」を推進しているのが北海道コカ・コーラボトリングです。

平成19年から、「ジョージアサントスプレミアム 北海道限定デザイン缶」の売上げ金の一部を同財団法人に寄付しているほか、公募のうえ選出した道内各地の水に関係する環境保全団体に対して助成、支援を行っています。

平成22年は7団体支援  
活動には社員も参加

支援先については、1年毎に募集し、選考会を経て、水辺の

環境を守る活動をしている団体を道内各地から広く選出しています。

平成22年の支援団体は、「ざりがに探偵団（旭川市）」「美幌町郷土史研究会（美幌町）」「NPO法人ふらっと南幌（南幌町）」など全道各地の7団体。水辺の観察会から河川敷清掃まで活動内容は多岐にわたり、毎年フォーラムを開いて活動結果を発表する場を設けています。

この活動には同社社員が参加することもしばしば。社員も積極的にかかわることについて、CSR推進室は「活動を通して、社員の地域愛が深まるとともに、地域への密着度も高まっている」と語ります。

成功の秘訣

三者協働により  
活動の  
規模を大きく



毎週月曜日の朝、社員全員がごみ袋を持って、ごみ拾いに精を出す

札幌発寒工業団地で自動車の整備・販売を行う丸八庄田商會は、毎週月曜日の業務開始前に、幹線道路から社屋へとつながる市道や新川堤防沿いの緑地で全社員参加による清掃活動を行っています。平成

自動車整備・販売

**有限会社 丸八庄田商會**

西区発寒

環境保全 ■社員参加

## 社員の社会人としての意識向上にも効果 後に工業団地の全体の取組に発展

「結果的に社員の社会人としての意識向上にもつながっている」と思わぬ効果があったことにも言及。同社の活動は35社が加盟する工業団地協同組合にも波及し、平成22年秋からは年2回ほど工業団地内で全社一斉に清掃活動を行うという動きにつながりました。

15年から開始したこの取組は、仕事から車に乗る機会が多い同社の中本圭洋取締役会長が、車中から、道路脇に散乱するごみの多さを感じたのがきっかけでした。中本会長は活動が長続きしている理由について「習慣化したのが良かった」と述べ、「結果的に社員の社会人としての意識向上にもつながっている」と思わぬ効果があったことにも言及。同社の活動は35社が加盟する工業団地協同組合にも波及し、平成22年秋からは年2回ほど工業団地内で全社一斉に清掃活動を行うという動きにつながりました。



工業団地協同組合で同社の活動が話題になり、団地全体の取組に発展



貸与された土地では、学年で区画を割り当て、ジャガイモなどを栽培

札幌市立石山南小学校に隣接する石山病院では、「子どもたちの学習の場として畑を借りたい」という学校側からの要望を受け、敷地内の土地を無償で提供。同小学校ではこの畑を「学校農園」として

病院

医療法人 社団 信洋会

**石山病院**

南区石山

教育 ■物品提供

## 作物栽培の場として小学校に土地を提供 畑から生まれたつながりと温かい交流

「感謝している」と話します。児童が収穫した野菜を持ってきたり、授業の一環で病院見学に訪れることもあるそうです。学校の取組のため、畑のことは「先生たちにおまかせ」。地域の子どもたちの成長を温かく見守っています。

整備・管理し、児童が様々な作物栽培に挑戦しています。このことについて「子どもたちに食べ物のありがたみや農家の人の苦勞を知ってもらえたらと思うている」と吉村淑子事務局長。また、小学校の岡田悌二教頭は「いい体験ができるようにという心も込めて貸してくれていることに感謝している」と話します。児童が収穫した野菜を持ってきたり、授業の一環で病院見学に訪れることもあるそうです。学校の取組のため、畑のことは「先生たちにおまかせ」。地域の子どもたちの成長を温かく見守っています。



広い畑で育てた「自分の野菜」を収穫する石山南小学校の児童たち